

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。いよいよ定期テスト対策、進んでいますか。動物園では、皆さんのテスト後の学習に向けての教材開発を進めています。さて、今回は、おおきくておいしそうな「水鳥」の卵の不思議についてです。

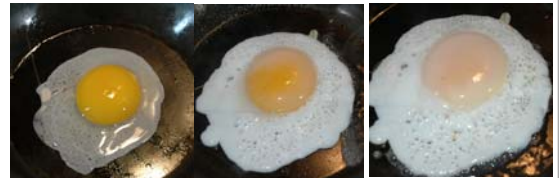
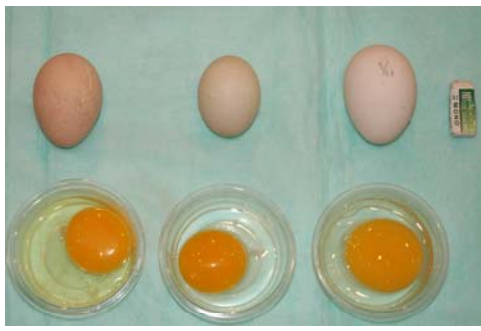


正門からサル山までの坂の半ばに「アヒル池」があります。朝一番で入園すると池とフェンスの間に大きな卵があることが多いのですが、気づいていましたか？

このコーナーでは、「アヒル」と「シナガチョウ」の2種類を飼育しています。どちらも「カモ目カモ科」の動物ですのでよく似ていますが、**マガモ**をもとに家畜に改良した「アヒル」と**サカツラガン**を改良した「ガチョウ」と祖先が違うのでその見分け方は簡単です。左の写真、上が「ガチョウ」下が「アヒル」です。すぐにわかるので掲示物を見るだけではなく、本物をよく見てくださいね。さらにガチョウは、(右の写真)上が♀(雌)、下が雄(雄)です。違い、わかりましたか。

卵の話に戻りますが、一見大きくておいしそうに見えませんか。アヒルの方は、約 100g と鶏卵の 2 倍はあります。ガチョウの方が一回り大きくて 150g くらいです。(下の写真の 3 つの卵は左からクジャク、アヒル、ガチョウ)

でも、割っただけで泥臭さが漂い、とても生卵では食べられそうもありません。ここで実験をしなければと、理科教師「幅崎」の血が騒ぎます。



「ガチョウ目玉焼きコーナー」=自宅でも実験をしたので家族からひんしゆくを買ってしまいました。

結果として、それなりに形にはなるのですが、黄身、白身とも少し様子が変わります。味も、とてもおいしいとは思えません。(食塩やソースをかけると変わるのかもしれませんが。)

アヒル、クジャクはどうなのでしょう。もう、試してみるしかありませんね。それと「ひよこ」になれる有精卵となれない無精卵、どう違うのか、学校での学習では「胚(=3年生の範囲)」という説明だけで通過してきましたが、実物が最高の教材であることを痛感しています。この卵教室の担当は、今後は「橋本」キーパーの担当となります。橋本キーパーからは、ガッチョンたちのほかにも「アライ・タヌキ？」のお話も聞けますよ。さあ、君(黄身)も「ラン(卵)教授」になってみませんか。「カモ目 カモ科」

動物園情報 みんなでレポートしよう。

ガチョウとアヒル、クジャクなど卵の違いを学習することができます。卵の数がそろっていることやほかの飼育作業との関係で不定期ですが、これも「子ども動物園」で行っている体験教室の一つです。なにせ相手が生き物なので不定期というのが難点ですが、たびたび足を運ぶとちょっとした知識がたまっていくのが動物園、博物館などいわゆる「社会教育施設」というところの魅力です。その知識を元にステップアップして学習するともっともっと楽しくなると思いませんか。



この人が子ども動物園のドン、何度か登場の

「三原」キーパーです。皆さんの疑問の多くを解決

してくれる頼もしい動物

園のおじさんです。自分には、アヒルの卵がどうなっているなんて、「おいしそう」以外は考えも及びませんでした。実際に料理をしてみて、「まずい。もういらない！」実感しました。では、また。

